



先鋒戦、先制を許した日下(パナソニックES門真)が時間終了直前に見事なコテを決めた(写真)。敗北がほぼ決定していた状況でのこの起死回生の一打でパナソニックが息を吹き返したか



決勝【中堅】

山田 (パナソニック) ○メー
(ES門真) 宮山 (富士ゼロックス)
東京・本社)

試合開始すぐ山田の鋭いコテが宮山の手元をとらえる(写真手前が山田)。その後も力強いひきメンで応援を沸かせた山田。これは一本とはならなかったが、再び同じようなひきメンを放てば今度は見事に有効打突となった。山田の鮮やかな二本勝ちでパナソニックが優勝を引き寄せた

◆決勝

チーム	順位					得点
	先	次	中	副	大	
パナソニック (ES門真)	日下 村 吉 田 森 ○メー コテ △	吉 田 森 達 △メ △	山 田 達 △メ △	笹 足 △メ △	足 達 △メ △	2
富士ゼロックス 東京 (本社)	小 室 太 田 宮 新 山 海 △	太 田 宮 新 山 海 △	新 野 △	野 村 △	村 △	1

道のりは決して平坦なものではなかつた。序盤戦のヤマ場とも言えたのは3回戦。ここで関東地区を代表する強豪・三井住友海上(本店)と激突。三井住友海上は過去にこの大会で7回の優勝を誇る伝統チームでもある。

決勝戦の組み合わせであつてもおかしくないこの対戦は、パナソニックが次鋒戦を落とす苦しい展開ながらも、中堅戦、大将戦を制しての逆転勝利を遂げた。ヤマ場を乗り越えたパナソニックだが、その後の6回戦でも強敵が待ち受けていた。昨年の優勝チーム・西日本シティ銀行(本店)である。

九州勢初の連覇を狙う西日本シティ銀行に対して、パナソニックは先鋒・次鋒



優勝◆パナソニック(ES門真)

日下達基(25歳)、吉村大地(22歳)、山田侑希(24歳)、笹森雄貴(24歳)、足達翔太(26歳)、久林武藏(26歳)。監督=酒井順也

全国各地から367ものチームが日本武道館に集い、実業団剣道日本一の座を争つた。

数多くのチームが参戦し、一日間で優勝を決めるもあり、日本武道館には16もの試合場が設置される。試合時間は1回戦から準々決勝までは3分間(準決勝より4分間)と設定されているのもこの大会ならでは。試合場は通常よりもや狭く、そして試合時間も短いという試合環境は実業団剣道の「難しさ」を象徴している。

大会の頂点に立つたのはパナソニック(ES門真)だった。パナソニックのメンバーは先鋒から、日下達基(25歳)、吉村大地(22歳)、山田侑希(24歳)、笹森雄貴(24歳)、足達翔太(26歳)。同社は平成24年の第55回大会で本社チームが優勝を果たしているが、今回優勝したES門真是同社Bチームにあたる。

今大会でのパナソニックの優勝までの

見せつけた選手層の厚さ! パナソニック(ES門真)が優勝

第59回 全日本実業団 剣道大会

平成28年9月19日(月・祝)
日本武道館
主催=全日本実業団剣道連盟
撮影=窪田正仁



準々決勝【副将】

新海
(富士ゼロックス東京・本社) ②— 賀川
(日通商事・本社)

▲前2人が引き分けに終わった後の中堅戦、富士ゼロックス東京の宮山がひきコテ、そしてコテと奪って二本勝ち。宮山の快勝を受けた新海は試合開始すぐに上段からの諸手コテを打ち込み(写真)、この一本を守り切り、日通商事を下す



準々決勝【中堅】

藤江
(ALSOK・東京) ②— 青木
(NTT東日本・東京)

▲先鋒戦で渡部が勝利し、NTT東日本が幸先良いスタートを切る。しかし、ALSOKはここから力を發揮する。次鋒の小曾納がメンの一一本勝ち。中堅の藤江もまた試合開始からすぐに鮮やかなコテを決めた(写真)。副将戦も試合開始からほどなく一本奪ったALSOKがNTT東日本を圧倒する

◆準々決勝		◆準々決勝													
チーム	順	先	次	中	副	大	得点	チーム	順	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス (東京) (本社)	小室	太田	宮山	新海	野村	3		ALSOK (東京)	篠崎	小曾納	藤江	福田	渥野井	4	
	×	×	○	○	○	5			○	○	○	○	○	○	1
日通商事 (本社)	成野	中松	川賀	青竹	越岡	0		NTT東日本 (東京)	渡部	若松	青木	竹越	岡	1	
	成	上	上	川	賀	山内	0		○	○	○	○	○	○	

準々決勝【先鋒】

東郷
(富士ゼロックス・本社) ②— 梅本
(JR東海・本社)



▲東郷は梅本が打ち込んできたところを返し気味にメン。そこから集中を切らすことなくひきメンを放てばこれが見事な一本となつた(写真は攻防)。次鋒戦も富士ゼロックス・岡北が先制してこのまま一気に押し切るかに思われたが、JR東海・鈴木が一本取り返して引き分け。さらに中堅戦も奪ってスコアをタイに戻すも、副将戦では富士ゼロックスが勝利。再度JR東海を突き放す

準々決勝【中堅】

山田
(パナソニック・ES門真) ②— 福本
(東レ・滋賀)



▲先鋒戦は好調の櫻原が二本奪つて東レが白星を先制。苦しい立ち上がりを強いられたパナソニックは次鋒の新人・吉村が勝利。これに続くとばかりに山田も試合開始すぐに力強いメンを奪つた(写真)。大将戦も勝利したパナソニックが準決勝へとコマを進めた

◆準々決勝		◆準々決勝													
チーム	順	先	次	中	副	大	得点	チーム	順	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス (本社)	東郷	岡北	上原	北川	岩川	2		パナソニック (ES門真)	日下	吉村	山田	笛森	足達	3	2
	○	○	○	○	○	3			○	○	○	○	○	○	4
JR東海 (本社)	梅本	鈴木	今泉	久留宮	大川	1		東レ (滋賀)	櫻原	茂田	福本	三雲	藤田	1	
	×	○	○	○	○	2			○	○	○	○	○	○	



準決勝【先鋒】

日下
(パナソニック・ES門真) ②— 篠崎
(ALSOK・東京)

▲篠崎がドウを狙おうと手元を変化させた瞬間、日下がその手元を目がけて竹刀を打ち込んだ(写真)。日下の貴重な1勝を得たパナソニックはポイントゲッターの中堅山田がひきメン、コテと奪つて二本勝ち。副将戦をミスなく引き分けに終えて決勝への切符をつかんだ

準決勝【代表】

野村 (富士ゼロックス・東京・本社)	②— 北川 (富士ゼロックス・本社)
-----------------------	-----------------------

▲次鋒戦を奪われた関東大会覇者の富士ゼロックスだったが、副将戦で北川がひき逆ドウを奪つて追いついた。代表戦へともつれた勝負も北川に託した富士ゼロックス。一方の富士ゼロックス東京からは大将の野村が戦いへと臨む。野村が放つたコテが北川をとらえ(写真)、勝負は開始ほどなく決した

◆準決勝		◆準決勝														
チーム	順	先	次	中	副	大	得点	チーム	順	先	次	中	副	大	得点	
富士ゼロックス (東京) (本社)	小室	太田	宮山	新海	野村	1	1	コ	ALSOK (東京)	篠崎	小曾納	藤江	福田	渥野井	1	1
	×	×	○	○	○	5			○	○	○	○	○	○		
富士ゼロックス (本社)	東郷	岡北	上原	北川	岩川	2										



と連勝を飾る幸先良いスタート。その後の副将戦では西日本シティ銀行の反撃にあうも、大将戦を引き分けに抑えたパナソニックがこの好カードを制した。

パナソニックが決勝戦で戦つたのは、これが初の決勝進出となる富士ゼロックス東京だった。実業団の強豪たちとして名を馳せる富士ゼロックスの販売会社にあたる同社。近年はとくに女子部の活躍が目覚ましかったが、ついに男子部がこの全日本大会で初の上位進出を果たした。

富士ゼロックス東京が飛躍を果たす大きなきっかけとなったのがパナソニック(本社)との5回戦だろう。関西を代表する強豪パナソニックAチームとの戦いは、子部がこの全日本大会で初の上位進出を果たした。

富士ゼロックス東京が飛躍を果たす大きなきっかけとなったのがパナソニック(本社)との5回戦だろう。関西を代表する強豪パナソニックAチームとの戦いは、子部がこの全日本大会で初の上位進出を果たした。

富士ゼロックス東京が飛躍を果たす大きなきっかけとなったのがパナソニック(本社)との5回戦だろう。関西を代表する強豪パナソニックAチームとの戦いは、子部がこの全日本大会で初の上位進出を果たした。

パナソニックと富士ゼロックス東京の決勝戦。先鋒戦で小室(富士ゼロックス東京)がドウを先制するも、対する日下(パナソニック)が時間終了間際にコテを返してギリギリで引き分けへと持ち込む。先鋒戦の黒星を覚悟していたであろうパナソニック陣営は、この日下の一打によって再びその士気を高めることとなりた。

その後の次鋒戦で勝利をおさめたパナソニック(本社)がドウを先制するも、対する日下(パナソニック)が時間終了間際にコテを返してギリギリで引き分けへと持ち込む。先鋒戦の黒星を覚悟していたであろうパナソニック陣営は、この日下の一打によって再びその士気を高めることとなりた。

パナソニックと富士ゼロックス東京の決勝戦。先鋒戦で小室(富士ゼロックス東京)がドウを先制するも、対する日下(パナソニック)が時間終了間際にコテを返してギリギリで引き分けへと持ち込む。先鋒戦の黒星を覚悟していたであろうパナソニック陣営は、この日下の一打によって再びその士気を高めることとなりた。

実力伯仲。結果的に両チームの明暗を分けたのは次鋒戦の一本。優勝候補の一角を下した富士ゼロックス東京はここから一気に波に乗つた。

準決勝では、親会社でもある富士ゼロックス(本社)と激突。同門対決となつたこの勝負は代表戦にもつれる接戦となつたが、富士ゼロックス東京の大将を務める野村が開始からほどなく鮮やかなコテを決め、勝利をおさめた。

「本社チームが優勝させていただいたのは4年前。それ以降は上位進出でできませんでした。門真チームは大将の足達が社会人4年目なのですが、彼が最年長の非常に若いチーム。今回試合に臨むにあたつて『何があつても怖がらずに攻め続けよう』と選手の意思を統一してきたことが勝因かと思ひます」

決勝戦を終えるや、面金の奥で泣き顔を見せたのは大将の足達。昨年まではAチームのメンバーだった足達だが、今回はBチームへと「降格」しての出場。足達の取り組みを酒井監督がこう語る。「Aチームのメンバーとして3年間悔しい戦いを経験してきて、今回はBチームでの出場となりました。それでも腐ることなく後輩たちをまとめあげてくれたことで剣道部全体にとつてもいい影響を与えてくれました」

準決勝で富士ゼロックス東京との同門対決に敗れた富士ゼロックス(本社)は今年の関東大会覇者でもある。プレッシャーがかかる中での今回の入賞は地力を示した好結果と評価できるだろう。

同じく大会3位に入賞したALSO(東京)はかつては大会の上位常連であつたが、ベスト4進出の記録となると平成20年にまでさかのぼる。今回の久々の入賞はALSO復活の狼煙となるか。気は早いが来期の関東、そして全日本大気での活躍にぜひ注目したいところだ。



2位◆富士ゼロックス東京(本社)

小室俊介(32歳)、太田涼介(22歳)、宮山俊一(33歳)、新海幹之(31歳)、野村慶徳(35歳)、齋藤徹(32歳)
監督=大岡正芳



5回戦【次鋒】

太田
(富士ゼロックス・東京・本社) | **磯口**
(パナソニック・ES本社)

▲近畿の強豪チーム・パナソニックのAチーム相手に富士ゼロックス東京が先制。次鋒の太田が磯口からコテを奪った(写真)。懸命の反撃を計ったパナソニックだったが中堅の高・副将の岩根も一本が奪えず。大将勝見の猛攻も光ったが富士ゼロックス東京・野村も粘って引き分けにおさえた

◆5回戦

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス 東京(本社)	小室	太田	宮山	新海	野村	1	
	×	×	×	×	×	0	
パナソニック (ES本社)	小野	磯口	高岩	勝見	岩根	0	

5回戦【代表】

岩川
(富士ゼロックス・本社) | **久保**
(大同特殊鋼・星崎)

▲豪富士ゼロックスに大同特殊鋼が食らいつき、5引き分けのスコアで代表戦へともつれた。富士ゼロックスの代表は大将の岩川。大同特殊鋼は副将の上段・久保が登場。互いにじっくりと様子をうかがう戦いは長期戦となったが、最後は岩川が久保の出て来るところを引き込み気味にコテにとらえた(写真は攻防)

◆5回戦

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス (本社)	東郷	岡北	上原	北川	岩川	0	
	×	×	×	×	×	0	
大同特殊鋼 (星崎)	牧山	杉浦	白石	久保	田中	0	

3位◆ALSO(東京)

篠崎幸人(26歳)、小曾納匠(27歳)、藤江浩二(27歳)、福田修一郎(29歳)、渥野井瑞広(34歳)、川口裕介(34歳)
監督=柳谷英樹(46歳)

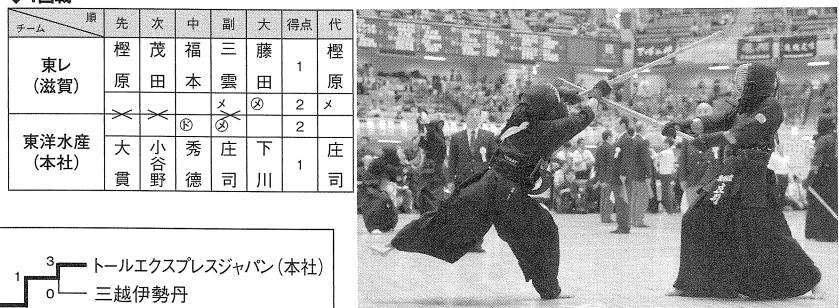
3位◆富士ゼロックス(本社)



東郷知大(24歳)
岡北真輔(37歳)
上原祐二(35歳)
北川清太(24歳)
岩川力(27歳)
監督=三木勤

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
東レ(滋賀)	東原	茂木	福本	三雲	藤田	1	
	×	×	×	×	×	2	
東洋水産(本社)	大貴	小谷	秀徳	庄司	下川	1	

◆4回戦



4回戦【代表】

樺原
(東レ・滋賀) | **庄司**
(東洋水産・本社)

▲どもに優勝経験のあるチームが4回戦で対戦。大将戦で東レが追いつき、勝負は代表戦へと突入。東洋水産からは副将の庄司、東レからは先鋒の樺原が戦いに臨んだ。樺原が思い切ったメンテで沸かせば庄司の逆ドウに旗が一本上がる場面も。決着は試合時間7分過ぎ。樺原の跳び込みメンが決まった(写真は樺原の攻め)

3回戦【大将】

足達
(パナソニック・ES門真) | **高村**
(三井住友海上・本店)

►次鋒戦で三井住友海上・石井が勝利するも、パナソニックは中堅の山田が勝ってスコアをタイに戻す。勝敗決する大将戦、実力者の高村に対して足達は機動力を活かしたメンを打ち込む(写真)。この一本を最後まで守りきった足達。パナソニックが序盤戦のヤマ場を乗り越える

◆3回戦

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
パナソニック (ES門真)	日下	吉村	山田	笠森	足達	2	
	×	×	×	×	3		
三井住友海上 (本店)	山田	鈴木	井口	高木	村	1	



6回戦【先鋒】

樺原
(東レ・滋賀) | **菅原**
(日本通運・本社)

▲関東大会では3位に入賞している日本通運が近畿大会王者・東レに挑んだ。先鋒戦、縦横無尽な動きを見せる樺原が鋭いコテを決めて勝利(写真)。日本通運は反撃の糸口をつかめぬままに次鋒、中堅と引き分けてしまう。副将戦、力を発揮したのは東レ・三雲。コテを二本奪って勝利を決めた

◆6回戦

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
東レ(滋賀)	樺原	茂木	福本	三雲	藤田	2	
	×	×	×	×	3		
日本通運(本社)	菅原	三浦	中柴	石谷	田口	0	



6回戦【副将】

賀川
(日本通運・本社) | **石山**
(伊田テクノス・本社)

▲昨年大会3位に入賞しているトールエクスプレスジャパンが先鋒戦をJR東海に奪われる苦戦。中堅の石井は何とか挽回しようと戦いに臨むも、今泉は守りに入ることなく攻め、途中、審判の旗が一本上がるメソ放つ(写真は攻防)。試合結果こそ引き分けに終わったが、今泉の奮闘を受けた副将久留宮が二本勝ちで勝負をつけた

◆6回戦

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
JR東海(本社)	梅木	鈴木	今泉	久留宮	大川	3	
	×	×	×	ツ	メ	5	
トールエクスプレスジャパン(本社)	安藤	阿部	石井	信吉	田中	0	

◆5回戦

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
日通商事(本社)	金成野	中島	川賀	山内	河内	2	
	×	×	×	ツ	メ	2	
伊田テクノス(本社)	内田	奥水	石橋	森山	本	0	

◆6回戦

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
日通商事(本社)	金成野	中島	川賀	山内	河内	2	
	×	×	×	ツ	メ	2	
伊田テクノス(本社)	内田	奥水	石橋	森山	本	0	

◆5回戦

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
伊田テクノス(本社)	内田	奥水	石橋	森山	本	1	
	×	×	メ	ツ	メ	2	
九州電力(本店)	荒木	平井	平井	高木	西村	0	

◆5回戦

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
西日本シティ銀行(本店)	斐川	中村	本浜	渡辺	地	1	
	ヘ	メ	ツ	メ	ツ	2	
西日本シティ銀行(本店)	斐川	中村	本浜	渡辺	地	1	

◆5回戦

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
西日本シティ銀行(本店)	斐川	中村	本浜	渡辺	地	1	
	ヘ	メ	ツ	メ	ツ	2	